様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号 18079　**学校名** 赤岡中学校　**氏名** 高橋　博子

研究の背景

研究対象（学年、クラス等） 2年　**生徒数** 23 名

科目名 2年　**単位数（授業時数）** 3 時間　**使用教科書名** NEW HORIZON English Course 2（東京書籍）

クラスの様子・特徴

この学年は、学習意欲を高めることを目標に生徒の希望をもとに学級を2つに分割して、少人数指導を行っている。理解力が高く積極的に授業に参加している生徒が多い反面、英語学習に興味が持てず、意欲的に学習に参加できにくい生徒もいる。

問題の確定

「英語を話せるようになりたい」と願っている生徒が多い。その前段としてまず、「聞く力を伸ばす指導の工夫」を行う。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
本文を読んだり、暗唱したり、簡単な文を例文を参考にして書いたりすることには、ある程度自信を持っている生徒が多く、授業にも積極的に参加している生徒が多い。しかし、学習が進むにつれ、学習内容の定着や学習意欲にバラツキが見え始めてきている。	授業の説明の仕方や話し方については、「分りやすい」と答えている生徒が大半であるが、「ほめて欲しい」や「楽しくしてほしい」という希望があるので、生徒にとって楽しい授業づくりを工夫し、授業中の肯定的評価を多くしていく必要があると思われる。	昨年度3月に実施したCRT検査の結果、読むこと(115)・書くこと(119)に関しては、まずまずの成果が得らてたが、聞くこと(96)・話すこと(93)に関しては、もう少し力をつけていく必要がある。

リサーチ・クエスチョン

聞く力を伸ばすにはどのように指導すればよいか。

仮説・実践・検証

仮説 ⇒	実践 ⇒	検証
語彙力をつけたり、基本文を読み書きするなど基礎的・基本的学習を徹底することが聞く力の向上につながるのではないか。	語彙力・表現力の向上のために、基本文型を利用し、毎週10文のテストを実施した。基本的に月曜日に新しい10文を提示し、その週の水曜日にテストを実施した。授業では、読む・書く時間を確保するため10文を使って1分リーディングや3分ライティングを取り入れ、読み・書きの定着を図ってきた。また、前期(4～10月)の週1回の家庭学習の定着の時間を利用し、前学年の内容も含めて基礎的・基本的内容を反復学習した。	毎週実施した基本文テストについては、授業でそれを使って読み書きを繰り返した結果、アンケート結果からも「単語が書けるようになった」や「文の作り方が身についた」などよい結果が得られたと思う。単語や文を正確に書けるようになるまでには至らなかった生徒の中にも「文を読むことができるようになった」り、「基本的な文を言えるようになった」と感じる生徒がいるなどある程度の成果は得られたのではないか。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
読む力をつけることが聞く力の向上につながるのではないか。	教科書の導入部分は音声から入ることを心掛けた。また、スラッシュリーディングやシャドーイング、ペアやグループを取り入れたリーディングなどを実施し、できるだけ声に出して読む時間を確保してきた。そして、音読ができているかどうかを確認するため、ALTによるリーディングテストを実施するとともに、授業の中でも残り5分を利用し、単語や文の練習の間に個別に読みの確認をしてきた。	ALTによるリーディングテストの結果や授業の中での確認から、多くの生徒が教科書の本文をよく声に出して読めるようになり、アンケートの結果から、「教科書の本文は読めるようになった」と感じている生徒も多くなった。今後、生徒が音読したショートストーリーなどについて日本語で内容を確認したり、口頭でQ＆Aを実施するなど読むことを聞くことにつなげる指導を工夫していきたい。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
授業に聞く・話す場面を多く取り入れることが聞く力の向上につながるのではないか。	授業の始めは、ピクチャーカードを利用して音声から入ることを心掛け、ALTとの授業では、聞く・話す活動に重点をおき、発音練習やリスニングクイズ、ショートストーリーを繰り返し取り入れてきた。予備調査の検証でリスニング問題に関して、文を聞いて答える形式の問題に対する正答率か低かったので、ショートストーリには、Q＆Aを毎回5問ずつ取り入れ、内容理解とともに、英語で答える力をつけることに取り組んできた。	リスニングテストの結果は、予備調査と同様に、絵を見て答える問題で正答率が高い反面、文字で書かれた答えを選ぶ問題で正答率がまだ低い。Q＆Aの結果からも単語で答えることはできても、文で答えることが苦手な生徒も多い。大体の内容は理解できているようであるが、さらに詳しく聞き取ることができ、質問には文で答えられるように、5W1Hなどポイントをつかんで聞く指導やQ＆Aの練習を継続して行っていきたい。

研究の成果

研究に入る前から、問題の洗い出しや研究課題の設定に至るまで、予備調査を実施するなどクラスの現状や問題点を把握したこと、そして、現状克服のための指導法の工夫について、年間を通して、検証を重ねながら問題意識を持って取り組めたことは、自己の指導上の問題点や弱点をその都度見直すことであり、指導力向上のために大変意義深いことであった。この1年で終わりにすることなく継続して指導法の工夫・改善に努めていきたい。

今後の授業改善の課題

今回は、聞く力をつけるための指導法の工夫に的を絞って仮説を設定し検証を重ねてきたが、今回設定した課題以外にも、聞く体制作りなどの授業規律に関する課題、宿題の出し方など家庭学習に関する課題、生徒達が興味・関心を持つ教材の開発、生徒に学習した内容を実際の生活と結びつけて利用、活用させていく力をつけるための工夫など様々な課題が見えてきた。それぞれの課題を克服するため継続して研究を重ねていく必要がある。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　0887-55-2165　電子メール　akaoka-j@kochinet.ed.jp